

提案募集番号2-9・2-10

<作目・畜種：施設果樹>



愛知県の 産地の現状

🍁ハウスミカンについては施設の環境モニタリング機器の導入が進んでいる。

ハウスミカン：結果樹面積(84ha)、出荷数量(4千t)

🍁かんきつ生産者の高齢化が進んでいる。

ミカン：産出額(79億円)、栽培面積(1,330ha)、出荷数量(23千t)

その他カンキツ：栽培面積(158ha)、出荷数量(2千t)



農総試での 関連研究成果

🍁ハウスミカンでは環境モニタリング機器導入とあわせた炭酸ガス施用等による高品質・増収技術を開発してきた。



解決したい 困りごと

🍁ハウスミカン栽培においては、多くの園地に環境データのモニタリング機器の導入が進み、データを容易に取得できる状況にある。しかし、このようなデータを栽培管理に活用できておらず、データの利用の方法が求められている。

🍁生産者の高齢化により労働力の減少が見込まれている。また、近年の気象変動により収穫量や品質の安定が難しくなっている。



解決案

以下は農業総合試験場の考える解決策であってこれら以外の提案も歓迎します。

提案募集番号2-9

キーワード：ビッグデータを活用する一元管理

🍁環境データと水分ストレス把握による生育予測技術の開発

ハウスミカンの多くの園地から得られる環境データに加え、樹の水分ストレス状況や生育に関するデータを活用し、最適な栽培管理技術や生育予測技術を開発することで、産地全体の収量と品質の向上を目指したい。

担当者：園芸研究部・常緑果樹研究室・江崎幾朗、権田絵美莉

提案募集番号2-10

キーワード：ビッグデータを活用する一元管理

🍁収量・品質予測と栽培管理技術の最適化

かんきつの選果データによる園地ごとの品質推移、衛星画像等による広域の気象情報、販売後の流通に関する多彩な情報等のビッグデータから、AIによる収量及び果実品質を予測するとともに、消費者ニーズを加味した最適な栽培管理情報を提供をするシステムを作成したい。

担当者：園芸研究部・常緑果樹研究室・江崎幾朗、栗田恭伸